

言文だより

2005年
No.5
1月発行

九州大学大学院言語文化研究院

言語文化研究院広報委員会 genbun@flc.kyushu-u.ac.jp

第2回 高大連携懇談会開催さる

言語文化研究院の社会連携活動の一環として、「英語教育における高大連携を考える」というテーマで第2回高大連携懇談会が平成16年年11月4日(木)に六本松キャンパスで開催されました。今回は文部科学省より先進的な英語教育の実践校としてSELHi (Super English Language High School) に指定された福岡県立香住丘高等学校と福岡女学院高等学校から英語の先生方を招いて、高校での英語教育の実践や新旧学習指導要領のもとでの高校教育の変化などについて話していただき、活発な意見交換が行われました。

SELHi 指定高校での取り組み

香住丘高校

英語のスピーキングと
ライティングの指導
(報告者 永嶋典子教諭)

福岡女学院高校

コミュニケーション能力養成の
中高一貫教育
背景知識を活性化する
スキーマ理論による指導
(報告者 南嶋朋子教諭、皆川雅志教諭)



それぞれの取り組みで両校が特に留意している事柄として、次の2点が挙げられました。

TOEFLやTOEICや英検などによる明確な到達目標を学年ごとに掲げる

リスニングやリーディングなどの英語能力の評価方法を開発する

新学習指導要領の影響

新学習指導要領のもとで、完全学校週5日制による学習内容の3割削減、卒業に必要な修得単位数の削減(80単位から74単位に削減)、「英語」の正式必修化、英語「言語材料」の語彙数の削減(中高合わせて200語程度減少)等が実施されています。その影響が次のような点に認められるそうです。

学習内容の3割削減による学力低下の懸念がある

常識や生活力や想像力なども低下しているようだ

ただし、生徒は概して素直であり、プレゼンテーション能力やパソコンを使う能力は優れているそうです。

大学への要望としては、大学入試の模範解答をホームページなどで公表してほしい、

英語の運用能力を発揮する機会をどんどん与えてほしい、といったことが指摘されています。



今後もこうした高大連携の催しを継続していくことによって、さらなる英語教育の改善の方途を探ることが肝要であるとの認識が、高校と大学の関係者双方に深まったといえます。

言語文化研究院P&P

工学部生を対象とした英語カリキュラムの4年間のシステム化およびそのための教材開発

言語文化研究院が申請したP&P(平成16年度および17年度の2年間 研究代表者：徳見道夫教授)が採択され、現在、英語科の教員の協力を得て実験をすすめています。平成16年度後期に、工学部6クラスの学生に対して、広島市立大学開発の「ネットワーク型集中英語学習プログラム」を用いての授業(3クラス)、CD-ROM教材 *Listen to Me!* を用いた自習形式の授業(2クラス)、TOEIC対策を全く行わない授業(1クラス)を実施し、その後、これら6クラスの学生342名に、TOEIC IPの試験(平成17年1月22日(土)実施予定)を受けてもらいます。その6クラスの成績を比較検討すれば、「ネットワーク型集中英語学習プログラム」が、TOEICの成績にどのような貢献をするかが明確になると思われます。このプログラムが有効であると判断されれば、平成18年度以降の英語教育カリキュラムに組み込まれていくことになります。

TOEIC対策	ク ラ ス
ネットワーク	工学部18組 物質科学
ネットワーク	工学部22組 地球環境
ネットワーク	工学部25組 エネルギー
CD-ROM	工学部16組 電気情報
CD-ROM	工学部19組 物質科学
なし	工学部27組 機械航空

インターネットを利用しても、利用者にやる気がなければ効果が上がらないのは自明ですが、本プログラムは利用者のモチベーションを高める工夫が十分になされており、高い学習効果が期待できます。更に、マン・パワーの点においても、インターネットを利用することにより、発信型の英語教育の実践に向けた少人数クラスのための人的配置が可能になることも、本プログラム導入のメリットのひとつです。

「ネットアカデミー」とは？

概 要

コンピュータネットワークを利用した英語学習システムです。平成15年5月から運用が開始されました。学内のコンピュータ端末から利用することができます。ぜひどのような教材か、実際に確かめて、大いに利用してください。

利用方法

九州大学 NetAcademy のURL:

<http://gogaku.kyushu-u.ac.jp/>

トップページには、NetAcademyそのものに関する簡単な紹介、利用に関する基本的な情報、よくある質問、お知らせなどが掲載されています。特にお知らせには、メンテナンスによる一時的な停止といった運用情報が掲示されますので、定期的にチェックすることをお勧めします。

コース内容

(1) スタンダード・コース

TOEICテストのスコアが300点から800点の学習者を対象

(2) 初級・中級者のためのTOEICテスト - スコアアップコース

TOEICテストのスコアが470点から550点突破を目指す学習者を対象

(3) IT時代の技術英語<基礎>コース

実用的技術英語習得を中心にしたコース

現在の利用状況

1,000名程度の学生と300名近い教職員が登録して英語の自学自習に利用しています。



「リスニング練習」画面



「リーディング練習」画面

「国際協力相談室」のこの一年

「国際協力相談室」が箱崎分室に開設されてまもなく1年になろうとしています。毎週水曜日と木曜日の午後、山下邦明教授と小松太郎助教授が、国際協力に関する学生たちの相談を受け付けています。

山下教授によれば、これまでに相談に来た学生は20数名であり、所属学部は、農学、工学、法学、経済学など多岐に渡っています。

米の改良を研究している農学部大学院の1年生のA子さんは、途上国の食糧不足を解消する希望をもち、将来、ローマに本部をおくFAO（食糧・農業機構）か、フィリピンにあるIRI（国際米研究所）で働くことについて相談に訪れました。

法学部3年のB君は、大のクラシック音楽好きであり、国際法の専門家として、また趣味の音楽を生かして著作権保護などの仕事をしたいと、相談室を訪ねました。パリに本部をおくユネスコ（国連教育科学文化機関）でそのような仕事があるだろうかという相談でした。

この他にも、国連の機関で働くにはどうすればいいか、そのための大学院の選択の準備、語学力はどのくらいのレベルまで必要なのか、留学経験があった方がいいか、などの相談がありました。

国際協力相談室は、4月からは、火曜、水曜、木曜の午後、国際協力に関心のある学生の相談を受け付けます。



相談風景

国際協力相談室

言語文化研究院・箱崎分室内

オフィスアワー（3月末まで）

水曜日 午後1時から午後4時まで

木曜日 午後1時から午後4時まで

810-8581

福岡市東区箱崎6-10-1

（正門より入って左、旧研究所2F）

TEL&FAX (092)-642-2284

E-mail : isdc@flc.kyushu-u.ac.jp

